

平成28年度 推薦・特別選抜・編入学 小論文

出題の意図と解答の傾向

問題1

【出題の意図】

鷺田清一『しんがりの思想—反リーダーシップ論』（角川新書、2015年）から出題した。著者は、現代の社会を地縁、血縁、社縁がやせ細った無縁社会であると捉え、「保護膜としてのコミュニティを再構築しなければもうもたない」という切迫した状況にありながら、縁をみずから紡ぎ、コミュニティを復活させることの難しさを論じている。このような状況の下でコミュニティの再構築はどのようにして可能であろうか。身近な問題であるだけに、受験生の読解力や作文力、さらに社会的な感性をもよく試すことができると考えた。

【解答の傾向】

<設問1>

解答例は以下の通り。

「無縁社会とは、地縁も血縁も社縁もやせ細り、ひとびとがたがいに過剰なまでに分断され、孤立を強いられた社会である。その背景には人口の流動化がある。これにともなうサービス社会の進行とともに地縁・血縁が弛緩していき、みずからの手で世話しあうという協働の能力や「共同防貧」の仕組みが失われていった。また一時期、この機能を分担していた企業や労働組合による家族丸抱えのソーシャル・サービスも、あまりに極端な職住不一致の就労形態のなかで、ほぼ消失した。こうして、「中間集団」による庇護の力が弱まり、個人が孤立したまま社会にむきだして曝されるようになった現代社会は、まさに無縁社会であると著者は述べている。」（294字）

「無縁社会」とは何か、そのような社会をもたらした原因は何か、著者の見解を的確に伝えるためには、文章中のキーワードをはずさずに著者の表現・言葉を用いて要約することが肝要。最後まで読まずに要約を書き始めたと思われる答案が目立ったが、キーワードを押えながら最後まで読んだ上で、著者の見解を的確に要約することが必要であろう。自分の意見を述べている答案もあったが、題意から言って、見当違いである。また自分の言葉に置き換えて説明しようとして、かえってポイントをはずしている答案もあった。「社縁」について理解が行き届かず、これにまったく触れない答案も少なからずあった。

<設問2>

さまざまな「縁」（つながり）について自分が挙げた例が「保護膜としてのコミュニティの再構築」にどう繋がるのか、あるいは繋がらないのか、をどのように論じているかがポイントとなる。自らの意見を述べる作文力、言い換えれば論理的な構成力や表現力はどれほどか、をおもな採点基準とし、さらに優れた社会的な感性をうかがわせる内容のものは加点した。

「縁」を強く感じる例として挙げられていたのは、地域活動（運動会、祭りなどの地域行事、清掃活動など）、学校生活（部活、友人や先生との絆）、家族・親戚、ネット上での繋がりである。みずからの体験に基づく例示であるから、多くの答案が具体性に富んだ興味深い内容をしっかり論じていたが、そのような例示を、無縁社会の現状を踏まえて「コミュニティの再構築」をどう図るかという論点へとうまく繋げている答案は多くはなかった。とくに学校生活や家族・親戚の「縁」を例示した場合に、そのような論点へと繋げることが難しかったようである。ほかにコミュニケーションの大切さ、ネット上のつながりの可能性を論じた答案もあった。また、人間関係が濃密で、必ずしも無縁社会とは言えない農山村や離島に住んでいる受験生が、その経験を踏まえて、高齢者を孤立させないような仕組みを述べている印象的な答案も少なくなかった。

みずからの体験に基づくのではなく、「縁」を一般論として論じた答案も多かった。東北大震災で被災者が示した「絆」に着目して、コミュニティの再構築への希望を述べた答案などがそれである。この場合でも論述がしっかりしていれば、評価した。大震災の教訓を踏まえた地域防災の新たな取り組みが、無縁社会にあって、新たな「地縁」づくり、あるいはコミュニティの再構築に役立つと指摘した優れた答案があった。

問題 2

【出題の意図】

衆議院議員総選挙における投票行動に関する資料をもとに、動向の変化、最近の特徴について読み取り、それに対する意見を述べさせることを目的とした問題である。個々の図表は単純なものが多く、読み取ることはそれほど難しくはない。複数の図表を組み合わせ、論理的に結論を導き出せるかどうかを問うている。

設問 1 は、それぞれの図表から、最近の投票行動について分析する問題である。投票率の推移、年齢別の投票率、棄権理由という投票行動についての資料と、国の政策に民意が反映されているかという世論調査の資料、投票参加促進広告への媒体別接触度についての資料が提示されている。投票率の低下、とくに若年層の投票率の低さが顕著であり、その要因をどのように解釈するかが問題である。

また、与えられた文字数は 300 字と、資料の数の割には少ない文字数となっている。限られた文字数で、枝葉末節を排除し、結論の中心部分を的確に表現できるかも評価のポイントである。

設問 2 は、上記の内容を踏まえて、若者の政治参加意識を高めるための方策について、意見を問うた問題である。若年層の投票率の低さの要因をとらえたうえで、投票参加促進広告への媒体別接触度、および政策に民意を反映させるための方法についての年齢別の差異から、論理的に方策を述べることを期待している。

意見そのものはどのような内容であってもかまわないが、それを導き出す論理展開がしっかりとできているかが重要である。

【解答の傾向】

設問1では、個々の図表を単純に説明し、それを羅列しているにとどまっている解答が目立った。設問の文にあるとおり、求められているのは最近の投票行動についての分析であり、全体として何が言えるかについて言及している必要がある。とくに与えられている文字数の少ない今回の問題では、重要な点に絞って言及しなければ、全体的にまとまった解答をすることは困難である。

設問2では、若者に対しての方策を問うているにもかかわらず、一般的に政治意識を高めるための方策を述べている解答が見られた。提示している資料をもとに若者の動向を分析し、その対策を述べる必要がある。

また、非正規雇用や社会保障の問題など、事前に指導を受けたと思われるテーマに強引に引きつけて、資料と関連のない解答をしている場合もあった。

選挙権の与えられる年齢が18歳以上に引き下げられることに触れた解答は多かったが、そこから政治参加意識を高める方策にまで、論理的に結びつけることができている解答は、一部にとどまった。

若者向けの政策をもっと積極的に実施すべきだという意見も多かった。しかし、若者の投票率が低い状況の下で、そうした政策が実施されるにはどのような条件が求められるかについて、言及している解答は少なかった。

全般として、例年の傾向ではあるが、誤字脱字の多い解答が目立った。とくに問題文中に示されている漢字にもかかわらず誤記しているものや、2文字の単語を1文字しか記入していないものなど、明らかなケアレスミスと思われる解答も少なからず見られた。